国　語

【必答】現代文　※この問題は受験者全員が解答すること

(一)　次の文章を読んで、後の問い（問一～十一）に答えよ。なお、行頭の1～11は段落番号である。

1　一九八九年に「写真誕生一五〇年」として世界各地で記念の展覧会やイベントが開かれた時点では、誰も今日のような状況を予測していなかっただろう。①「写真誕生二〇〇年」もどのような状況のなかで迎えられるのか、まったくわからない。②少なくとも写真史は二〇〇〇年前後からインターネットの影響を無視できなくなり、スマートフォンが一般化した二〇一〇年あたりを境に新しい時代に入ったと考えてよいだろう。風景に関するかぎり、それ以前とそれ以後では、写真の蓄積量だけでなく、写真の属性が決定的に変わった。撮影された写真とその位置情報がワンセットとなって、データの一部となるからである。

2　だが写真史を振り返れば明らかなように、都市の移り変わりと写真表現は常に深い関係にあった。③パリ大改造[注1]とウジェーヌ・アジェ[注2]による記録としての都市写真は、まさに「変わりゆく風景と写真」の代表作だとも言えるだろう。一九九〇年代から進んだ写真のデジタルデータ化とマルチメディア化は、同時期に世界中で進んだ再開発と深い関係にある。冷戦の終結後、世界の都市は新自由主義的経済の爆発的な進行に飲み込まれ、またアジアを中心にいわゆる新コウ[a]国がかつての日本のような急激な成長期へ入っていった。特にアジアの諸都市の変貌ぶりは凄まじく、北京、上海、香港、バンコクなど中国や東南アジアの大都市は、この二〇年間でほぼ別の都市になったと言っても過言ではない。【　A　】

3　もちろん日本の高度成長期にも都市再開発は進んだが、一九九〇年代のそれとは比較にならない。再開発はもはやひとつの国で起きる現象ではなく、グローバル化の現象として同時多発的に進行するからである。量的にも質的にも、それまでの歴史が経験したことのないようなものであり、特に大都市ではひとつの町をまるごと建て直すような、極タン[b]なスクラップ・アンド・ビルドが進行する。グローバル化の速度に加えて世界規模で似たようなデザインや建材が画一化を推し進め、世界中どこでも似たり寄ったりの非場所的風景[2]が出現していった。こうした変化に、人間の記憶能力はもはやついていけないだろう。

4　この時期に中国で多くの現代写真家が変わりゆく都市の風景をテーマにしたことは、当然のことだった。北京では胡同（フートン）と呼ばれる伝統的な居住区がブルドーザーによって次々と取り壊されていった。跡地に建てられた高級マンションからは、過去のコン[c]跡が消え去っている。大都市の郊外には周辺の景観とまったくそぐわない、規格化された集合住宅が、筍（たけのこ）というより竹林のようにして増えていった。そこにかつてどのような風景があったのかを思い出すことは不可能だし、そもそもそのようなことに興味をもつ住人もいない。【　B　】

5　言い換えれば、風景はいまやヴァーチャル化しながら、忘れられるためにある。それが「写真誕生一八〇年」を迎えようとする現代写真の背景だとも言える。だが面白いことに、風景がヴァーチャル化すれば、リアルを取り戻したいという欲求も強くなる。日本の風景写真において、その欲求はブームとなって現れた。ひとつは廃墟（はいきょ）への広範な関心である。廃墟探検や廃墟ツアーとして雑誌の特集が組まれたり、廃墟のガイドブックが増サツ[d]を続け、多くの写真集も出版された。【　C　】

6　廃墟と風景の関係は長い。一八世紀にはフランスやイギリスの庭園で古代ローマの遺跡風の石組みを配するスタイルが流行し、やがてオリエンタリズム絵画によって、さかんに古代遺跡が描かれた。それは写真にも引き継がれて、ヨーロッパの写真家は考古学者や文学者、商人らと東方へ向かい、ギリシャやエジプトの古代遺

跡を撮影した。廃墟趣味はヨーロッパの植民地の拡大と重なっている。

7 二一世紀の廃墟趣味は、どうだろうか。そこで取り上げられる廃墟とは古代社会のものではなく、明治以降の近代建築や昭和時代の産業遺跡である。そこに郷シュウ[e]を重ねることもできるかもしれないが、それだけが理由でもなさそうである。近代の西欧人が廃墟にギリシャ・ローマ時代への憧憬（どうけい）や、地中海地方への旅行の欲望を重ねたのと、[3]現代の廃墟趣味はどこか根本的にちがうという気がする。

8 そう考えるのは廃墟ブームとほぼ同時に、工場や工業地帯の写真がブームとなったことと関係がありそうだからである。それらの写真は、一九二〇年代の機械的、構成主義的美学の対象ではなく、ましてや一九七〇年代に撮影された労働現場のドキュメンタリー写真とも違って、工場や工業地帯を人工風景として撮影したものである。「工場萌（も）え」という言葉が生まれたことが示しているように、それは人間の営みではなく、あくまで工場というスケールで見た場合の美学を志向Ⅰしている。廃墟ブームと同様に、工場のほうも夜間の工業地帯見学ツアーが人気となり、場所によっては町興しの火付け役Ⅱになるくらいの社会現象である。【 D 】

9 廃墟も工場も、「殺風景」な場所であえて人の近づくところではなかった。だがそんな殺風景への欲望が芽生えたのが平成だったとすれば、[4]何かの理由があるだろう。稼働中の工業地帯と、役目を終えた廃墟とではおよそ共通するものは何もないが、ひとつ考えられるのは、風景の「物理的な手応え」である。

10 生活の均一化と画一化が進み、どこへ行っても同じモノが同じ背景のなかに並ぶ、［ア］な世界が訪れたのが平成だったとするなら、人間には［イ］だけでは生きられない生理的な欲求があるのかもしれない。［ウ］なモノの手触りを求めていたとき、それまで等閑視Ⅲしていた「殺風景」に行き当たったのではないだろうか。廃墟や工場は殺風景だからこそ、いいのだ。［エ］世界の代償として生まれた息苦しさから逃れるため、日本人が無意識のうちに探り当てていた風景だと言えるかもしれない。【 E 】

11 その意味でも殺風景は、写真史における大きなテーマのひとつである。伝統的な風景写真よりも、殺風景写真のほうにリアルを感じるというのが、平成世代の特徴になるだろうか。

（港千尋『風景論――変貌する地球と日本の記憶』による）

（注）1 パリ大改造――一九世紀半ばにパリで行われた大規模な都市整備事業。
2 ウジェーヌ・アジェ――フランスの写真家。失われつつある古いパリの有様を写真に残した。一八五七～一九二七。

問一　傍線部a～eの漢字と同じ漢字を含むものはどれか。次の各群の1～5のうちから、それぞれ一つずつ選べ。解答番号は 1 ～ 5 。

a　新コウ国　1

1　スポーツ中継を見てコウ奮する
2　キリスト教を信コウしている
3　重コウなストーリーに引きつけられる
4　彼女は社コウ的な人だ
5　実験は成コウを収めた

b　極タン　2

1　失敗して落タンする
2　美しい演奏に感タンする
3　要点をタン的に説明する
4　金銭にタン泊な人
5　タン練を重ねて上達する

c　コン跡　3

1　突然の事態にコン惑する
2　新たな土地を開コンする
3　夕食のコン立を考える
4　商コンたくましい店主
5　銃撃戦の弾コンが残る史跡

d　増サツ　4

1　門の横に表サツがある
2　別サツ付録のついた雑誌
3　摩サツによって熱が生じる
4　新聞の縮サツ版を読む
5　古寺名サツを訪ねる

e　郷シュウ　5

1　金銭へのシュウ着を手放す
2　大統領にシュウ任する
3　大シュウの支持を得る
4　哀シュウを帯びた音色
5　根拠のない仮説を一シュウする

問二　空欄①～③に入るものはどれか。最も適当なものを、次の**1**～**6**のうちから、それぞれ一つずつ選べ。ただし、同じ番号を二度以上使用してはならない。解答番号は①＝[6]、②＝[7]、③＝[8]。

1　だが
2　ところで
3　つまり
4　そして
5　たとえば
6　なぜなら

問三　波線部Ⅰ「志向」、Ⅱ「火付け役」、Ⅲ「等閑視」の本文中での意味はどれか。最も適当なものを、次の各群の**1**～**5**のうちから、それぞれ一つずつ選べ。解答番号は[9]～[11]。

Ⅰ　志向　[9]

1　この上なく優れたものとして扱うこと
2　好ましいと思う方向に突き進むこと
3　ある一定の対象に意識が向けられること
4　自分の意志をはっきり示そうとすること
5　一つのことに打ち込んで解明すること

Ⅱ　火付け役　[10]

1　後始末をするもの
2　きっかけを作るもの
3　諸悪の根源となるもの
4　勢いを盛んにするもの
5　物事の責任を取るもの

Ⅲ　等閑視　[11]

1　同じように扱うこと
2　存在を否定すること
3　重要だとみなすこと
4　いつも見ていること
5　ほうっておくこと

問四　傍線部**1**「今日のような状況」とあるが、一九八九年時点とは異なる今日の状況として**該当しないもの**はどれか。最も適当なものを、次の**1**～**5**のうちから一つ選べ。解答番号は 12 。

1　建物のデザインが再開発によって統一化され、周辺の様子と合わなくなるという状況
2　スマートフォンが普及し、写真もインターネットの影響を受けざるを得ないという状況
3　風景写真に風景以外の情報が付属するなど、写真がデータとして存在しているという状況
4　アジア諸国で経済が急激に成長し、大都市と郊外との間で格差が広がっているという状況
5　写真のデジタルデータ化とマルチメディア化が、世界中で急速に進行しているという状況

問五　傍線部**2**「非―場所的風景」とはどのようなものを意味していると考えられるか。最も適当なものを、次の**1**～**5**のうちから一つ選べ。解答番号は 13 。

1　世界規模で急速に進められた都市の再開発
2　他の都市と区別がつかないような様子の空間
3　均一化されて際立つことになった都市の景観
4　記憶によってしか実感できないさまざまな都市
5　変わりゆく都市の風景を受け入れられない現象

問六　傍線部**3**「現代の廃墟趣味」の特徴として最も適当なものを、次の**1**～**5**のうちから一つ選べ。解答番号は 14 。

1　一九七〇年代に撮影された労働現場のドキュメンタリーに映し出されるような、近代都市の急速な開発における矛盾や暗部への批判を内包している。
2　古き良き時代の美学に対する懐かしさや憧憬を絵画や写真に残すことで、現代の生活スタイルに当時の美を投影し、人々の関心を集めようとしている。
3　大都市と廃墟との共通項を人工風景であるという点に見いだし、グローバル化の中で新自由主義的経済が爆発的に進行していくことを肯定しようとしている。
4　人の手が加えられていない風景の希少性を高く評価し、伝統的な風景写真の対象とするだけでなく、その場所に実際に行くことで記憶に残そうとしている。
5　風景がヴァーチャル化してかつての姿が忘れ去られていく中で、人があえて近づかないような場所の中にリアルを感じ取ろうとする欲求が反映されている。

問七 傍線部4「何かの理由」とあるが、どのような理由か。最も適当なものを、次の1～5のうちから一つ選べ。解答番号は 15 。

1 植民地主義への反省によって、ギリシャやローマのような古代遺跡にではなく、社会を支える工場やその結果物としての廃墟の価値を再発見しようという意識が高まってきたから。
2 世界の都市の再開発が同時多発的に進行する一方、グローバル化の行き詰まりから豊かさへの疑問が生まれ、自然の風景ばかりでなく工場や廃墟に美を見いだすようになったから。
3 工場や廃墟の示す殺風景な光景こそがスクラップ・アンド・ビルドが進行する現代社会の正体であり、そのありのままの姿を見たいという欲求が強くなったから。
4 殺風景が生み出す物理的な手応えは、グローバル化によって過去の風景が消え、似たような都市が立ち並ぶ息苦しい現代社会から、人間を解放するから。
5 現代の都市空間のなかでも、廃墟や工場のみに見られる殺風景な有様をドキュメンタリー写真として見ることで、人間の営みを再評価できると考えたから。

問八 空欄 ア ～ エ に入るものはどれか。最も適当な組み合わせを、次の1～6のうちから一つ選べ。解答番号は 16 。

1 ア＝等質　イ＝等質　ウ＝異質　エ＝異質
2 ア＝異質　イ＝等質　ウ＝等質　エ＝等質
3 ア＝等質　イ＝等質　ウ＝異質　エ＝等質
4 ア＝異質　イ＝異質　ウ＝等質　エ＝異質
5 ア＝等質　イ＝異質　ウ＝等質　エ＝異質
6 ア＝異質　イ＝異質　ウ＝異質　エ＝等質

問九 本文の各段落の役割として最も適当なものを、次の1～5のうちから一つ選べ。解答番号は 17 。

1 段落2は逆接で始まっており、前の段落と反対の意見を述べている。
2 段落5はそれまでの内容を受け継ぎつつ、話題を転換させている。
3 段落7は前の段落に具体例を追加することで、内容を補足している。
4 段落8は前の段落の問いへの解答にあたり、全体の要点を述べている。
5 段落11は疑問形で終わっていて、筆者の思いが別にあることを示唆している。

問十　次の一文を本文の中に入れるとしたら、【　A　】～【　E　】のうちのどこに入れるのがふさわしいか。最も適当なものを、次の**1**～**5**のうちから一つ選べ。解答番号は 18 。

地球規模での都市への人口集中によって、都市風景の画一化はこれからさらに進むだろう。

1　【　A　】
2　【　B　】
3　【　C　】
4　【　D　】
5　【　E　】

問十一　本文の内容と**合致するもの**はどれか。最も適当なものを、次の**1**～**5**のうちから一つ選べ。解答番号は 19 。

1　都市の変遷と写真表現との深い関係は一九九〇年代の写真のデジタルデータ化とマルチメディア化から始まり、北京や上海などの大都市の風景を多くの現代写真家が扱うことでより顕著になった。

2　日本の高度成長期における都市再開発はグローバル化の現象として同時多発的に生じたものであり、大都市では町全体を一から作り変えるようなスクラップ・アンド・ビルドが進行した。

3　町をまるごと建て直すような大規模で急激な都市再開発と、画一的な都市風景の出現とが世界規模で進行しており、かつての風景を思い出せないような状況になっている。

4　近代の西欧人が廃墟にギリシャ・ローマ時代への憧憬を見いだしたように、現代の日本人はリアルな人間の営みに対する憧憬から廃墟に機械的、構成主義的美学を見いだしている。

5　近年の廃墟ブームや工場ブームは殺風景の中に均一化と画一化の美を求めるものであり、殺風景は平成世代の写真史における大きなテーマのひとつとなっている。

【選択問題】現代文

※国文学科に出願している場合（国文学科を併願している場合も含む）は、(二)ではなく、15ページからの(三)を解答すること

※この問題を解答する受験生は、マークシートの「(二)現代文」にマークの上、解答すること

(二) 次の文章を読んで、後の問い（問一～十一）に答えよ。

給食の歴史を研究して何よりも驚いたのは、全国各地で合理化やセンター方式に対する抵抗・抗議運動が何度も粘り強く繰り返されていたことだった。戦後の給食は、官製の「学校給食打ち切り反対」運動のみならず、行きすぎた合理化をめぐる親、とくに二〇代から三〇代の母親たちや栄養士たちの異議申し立てとその実現の歴史でもあった。

給食は単なる政策ではない。これほどまでに運動がその対象のかたちを変えていった国家プロジェクトは少ないだろう。給食とは、子どもたちの生命の維持装置でありうる一方で、それに危害を長く持続的に与え続ける暴力装置にもなりうるからだ。[1] しかもそれは意図的ではなく、人道的措置という外皮さえまとう。給食をめぐる運動を過剰反応であると批判する向きもあるが、それは正確に歴史を理解していない証左である。短期で大きな暴力の発現は、怒りの表明と抗議に結びつきやすい一方で、長期に及ぶ小さな暴力の発現は「そんなに心配しなくてもいいのに」という、［①］現状が安全であってほしいという根拠のない願いと結びついているからである。水俣病（みなまた）やイタイイタイ病などの日本の公害がそうであったように、長期持続の暴力は、行政側の発見も調査も対応も遅い。長期持続の暴力の発現に対する抗議の運動は、給食をめぐる巨大で見通しのきかないシステムに向かうには難しかったが、その大きな先駆として、給食をめぐる保護者・学校栄養職員・調理員・教師の小さな運動があった、という事実は強調したい。

不安と心配の共同体は、［②］持続的な「ドメスティック・バイオレンス」(注1)にさらされる。しかし、［③］、過剰な合理化路線を走る給食が子どもたちに与える長期間の影響も、場合によっては、ソフトなドメスティック・バイオレンスになりうる感性は、［④］失ってはならない。この教訓は、食中毒の歴史が雄弁に語っている。戦後給食史は、給食公害とたたかう歴史でもあった。給食は、クリーニング店の店主から、主婦、小学校の先生まで、普段政治とはそれほど関わりのない人を巻き込む運動を呼び覚ました。そのような人びとにとっての給食は「公共」の問題の重要なトピックでありつづけた。

忘れてはならないのは、このような都市型の運動とは位相の異なる、欠食児童たちのために給食を求める運動である。岩手のすずらん給食(注2)も、敗戦後に本土から切り離され米軍の直接統治になった沖縄も、その沖縄で最も深刻化している現在の「子どもの貧困」もそうである。脱脂粉乳や冷凍食品が健康に良いか悪いかなど言っていられない段階では、給食はまず「子どもたちを満腹にさせること」が最も重要な目的となる。[2] センター方式でも僻地（へきち）や貧困家庭では給食はあるに越したことはない。その意味では、学校給食の質を問うことは「贅沢な悩み（ぜいたく）」なのかもしれない。食う食えないという生存の問題と、おいしいまずいというテイストの問題がつねに給食には並存している。戦時中の飢餓を経験した人びとからは子どもの偏食は「恵まれた時代」を生きる子どもたちの「わがまま」であったし、その感覚が給食の質の改善を訴える人びとに対する冷めた感覚の原因であったかもしれない。

しかし、これらは水と油（I）なのだろうか。[3] 私はそうは思わない。究極的には、給食とは、子どもたちの生存をおいしい食事で確保することである。生存だけでは、最低限度の動物としての条件にすぎない。動物では

なく人間として食べる以上、そこに加わる効果、とくにおいしさや楽しさも享受することはなんら贅沢ではない。学校給食が飼育ではなく、児童生徒が家畜ではなく、未来を作る主体であるならば、そこに真っ先に豊潤な予算が割かれてもおかしくない。日本給食史は、制度の歴史であるだけでなく、運動の歴史でもあった。それは、鉢巻きと団旗で構成される狭義の「運動」ではない。給食自体が不確定、不明瞭で毎日変転する生の「運動」を扱う以上、制度は毎日のように更新されなければならない領域であった。制度史ではないという広い意味において、私は給食史を運動史ととらえたい。[4]

給食は主流の教育史のなかでそれほど重視されてこなかった。教師や学校栄養職員や調理員の自発的な教育への関与と教育への組み込まれ方は世界でも類を見ないものであるが、まだその特殊性に注視した教育史は書かれていないように思える。国語・算数・理科・社会などの主要科目は受験課題となる一方で、給食は受験とは関係がなく、家庭科と同様に周縁に置かれっぱなしになっている。給食時間も二〇分から三〇分程度しか割くことができない。膨大な知識を教える圧力に押され、時間の調整弁となっている学校もある。

そうである以上、高度経済成長期に放たれた教育評論家の金沢嘉市（かなざわかいち）のつぎの批判は誠に興味深い。「言い過ぎかもしれないが、教師に給食という雑務をやらせなければ、いまの子どもたちの学力は、もう三分の一向上する」（『学校給食』）。また、一九四六年から都内で小学校の教員、教頭、校長を務めて退職したKの発言も金沢の議論と重なる。「当初の教育は、いってみればGHQによる〝占領政策の一環〟であり、教育とは別個のものだった。独立と同時に当然、給食も終わると思っていたのに、いつの間にか〝教育の一環〟にすり替えられていた。追っかけるように学校給食法が施行された。その過程で給食産業側の営利的要請が優先され、教育的配慮は後回しにされた。そのあいまいさが依然としてつづいている」（同右）。[5]

どちらも傾聴に値する。給食は教育なのか単なる昼食なのか、その境を曖昧にしてしまったことは、給食の発展そのものの足かせであっただろう。現在、これらの発言の時よりもさらに忙しく過労状態に置かれた教師にとって、学校給食の時間まで労力を費やすことは、労働倫理として問題であろう。しかし、金沢やKの議論は、いまの知識投入型の教育が教師を多忙にしている前提あってのことであるにすぎない。

食べることは生きることの基本である。手垢（Ⅱてあか）にまみれた言葉であるが、この定理をまともに受けた教育は、食育基本法を経たあとも、まだ一部を除いて実現していない。読むこと、書くこと、話すこと、数えること、予測すること、観察すること、疑問に思うこと、問題を立てること。これらのどの学びもいま「解くこと」Ⅲに収斂（しゅうれん）されつつある。この点、文部官僚が占領期に説いた国語・算数・理科・社会と給食の有機的結合という理念は、やはり再考に値するだろう。食は、あらゆる学びの基本でもある。食材を育て、料理し、配分し、食べ、片付ける、という給食のあらゆるプロセスで、具体性をもって身につくかもしれない。もっといえば、日本の二〇世紀史を規定する水銀汚染も放射能汚染も給食から学べる。人間が生きものの連鎖のうえにしかその生を維持できないことは、給食が教えてくれる。地域の農業・漁業も給食の食材として学べば、知は紙上を滑るだけのものから、実地に根を張ったものになりうるだろう。[7]

（藤原辰史『給食の歴史』による）

（注）1　ドメスティック・バイオレンス――家庭内暴力。

2　すずらん給食――一九六五年、岩手県の欠食児童のために盛岡ライオンズクラブが給食資金を提供した運動。子どもたちが摘んだすずらんの売り上げ金を資金の一部に充てたことからこの名がついた。

問一 空欄①～④に入るものはどれか。最も適当なものを、次の**1**～**8**のうちから、それぞれ一つずつ選べ。ただし、同じ番号を二度以上使用してはならない。解答番号は①＝ 20 、②＝ 21 、③＝ 22 、④＝ 23 。

1 あえて
2 必ずしも
3 しばしば
4 とりわけ
5 できれば
6 かねがね
7 そもそも
8 決して

問二 波線部Ⅰ「水と油」、Ⅱ「手垢にまみれた」、Ⅲ「収斂」の用法として最も適当なものを、次の各群の**1**～**5**のうちから、それぞれ一つずつ選べ。解答番号は 24 ～ 26 。

Ⅰ 水と油 24

1 謝罪もせずに言い訳ばかりするのは、水と油だ。
2 問題が大きくなってから焦っても、水と油だ。
3 彼と彼女は性質が合わず、水と油の関係だ。
4 得意な分野について、水と油のごとく話す。
5 頑固な彼にはどんなに説明しても、水と油だった。

Ⅱ 手垢にまみれた 25

1 真っすぐで手垢にまみれた言葉に、思わず胸を打たれた。
2 相手の手垢にまみれた態度を、不愉快に感じる。
3 ホームステイ先の家族から手垢にまみれた歓迎を受ける。
4 思いがけない出会いに、手垢にまみれた感情を覚えた。
5 手垢にまみれた表現では思いは伝わらないと痛感した。

Ⅲ 収斂 26

1 会議を続けるうちに意見が一つに収斂する。
2 技能を身につけるためには繰り返し収斂する必要がある。
3 各所で問題が発生し収斂がつかなくなる。
4 かつては勢いがあったが少しずつ収斂していっている。
5 必要な情報を広い範囲に収斂させる。

問三　傍線部**1**「危害を長く持続的に与え続ける暴力装置にもなりうる」とあるが、どういうことか。最も適当なものを、次の**1**～**5**のうちから一つ選べ。解答番号は 27 。

1　給食は、人道的措置という外皮をまとっているにもかかわらず、意図的な健康被害が内側に隠されやすい仕組みを持っており、組織的に統制することが不可能な場合がほとんどであるということ。

2　給食をめぐる運動は、目的があいまいで短期間で成果をあげることが難しいため、運動に直接関係しない人々からは単なる過剰反応だと見なされやすく、問題があっても長期間解決されないということ。

3　給食で悪影響が出た場合に起きる給食への抗議運動は、集団の暴走による暴力の発現に結びつきやすく、学校現場の和を乱すことから、子どもへの教育的な被害を長期的に継続させてしまうということ。

4　給食は、長期間にわたって子どもたちの健康に影響を与えるが、給食に何らかの問題が生じていても、その被害が少量ずつである場合には発見や調査の対応が遅れやすく、被害が発生し続けてしまうということ。

5　給食は、巨大で見通しのきかないシステムであるがゆえに、現状が安全であるという思い込みに世論が支配されやすく、抵抗運動が起こりにくいため、被害が長期化してしまうということ。

問四　傍線部**2**「学校給食の質を問うことは『贅沢な悩み』なのかもしれない」とあるが、筆者がそう考える理由として最も適当なものを、次の**1**～**5**のうちから一つ選べ。解答番号は 28 。

1　脱脂粉乳や冷凍食品が健康に良いか悪いかを厳密に検証することは難しく、行政にかかる負荷が大きく合理的ではないから。

2　給食の内容や味にこだわるよりも、子どもたちを満腹にさせることが大切であるという場面が現実に存在するから。

3　僻地や貧困家庭における欠食児童やその保護者にとっては、栄養が豊富な給食が提供されることが最優先だから。

4　生存の問題とテイストの問題の双方を検討したうえで、生存の問題が常に優先されるべきだと考えているから。

5　子どもの偏食を「恵まれた時代」に特有の現象と捉えて対応することが、給食に関する問題の解決につながるから。

問五　傍線部3「私はそうは思わない」とあるが、筆者はどのように考えているのか。最も適当なものを、次の1～5のうちから一つ選べ。解答番号は 29 。

1　食事を楽しむことは、食事によって生命を維持することと同様に、子どもたちが人間として生きるうえで重要なことである。
2　生存に必要な最低限の量すら食べられなかった戦時中のことを思えば、食事においしさを求められる現代は恵まれている。
3　ただ栄養価ばかりを重視して、おいしさを度外視してきたこれまでの給食制度を、豊かな時代になった今こそ改めるべきである。
4　戦時中の飢餓を経験した世代に、現代の偏食に苦しむ子どもたちのことを知ってもらうことが、給食の質の改善につながる。
5　学校給食制度によって最低限度の生存を保障すれば、子どもたちが健全に安心して生きていく社会を実現することができる。

問六　傍線部4「私は給食史を運動史ととらえたい」とあるが、給食をめぐる「運動」を総括するとどのようなものであるといえるか。最も適当なものを、次の1～5のうちから一つ選べ。解答番号は 30 。

1　給食の合理化・センター方式を進めていくためのもの
2　給食の危険性を周知し、給食を中止に追い込むためのもの
3　給食の重要性を主張し、子どもたちのために予算を得ようとするもの
4　給食の質の改善を訴える人びとと反論する人びととが争うもの
5　給食の弊害をなくし、より質の高い給食を求めようとするもの

問七　傍線部5「どちらも傾聴に値する」とあるが、金沢とKの意見に対する筆者の立場として最も適当なものを、次の1～5のうちから一つ選べ。解答番号は 31 。

1　金沢とKの意見に部分的に反論したうえで、自身の意見と異なる点を簡潔に説明している。
2　金沢とKの意見に理解を示しながらも、その意見の前提となる状況に指摘を加えている。
3　金沢とKの意見に同意したうえで、補足や改善案を提示することで、意見を深めている。
4　金沢とKの意見の矛盾を指摘して補足したうえで、前提条件を改めて明確にしている。
5　金沢とKの意見の相違点を明らかにしたうえで、自身の意見と共通する部分を解説している。

問八 傍線部**6**「この定理をまともに受けた教育」とは、どのような教育か。最も適当なものを、次の**1**～**5**のうちから一つ選べ。解答番号は 32 。

1 学習よりも生きることを重視し、食に予算をかけることを惜しまない教育
2 教師が給食のような雑務に追われることなく、知識の投入に集中できる教育
3 日々の学習活動において、学力よりも生きる力の育成に注力した教育
4 食をめぐる課題を、あらゆる学問と有機的に結合させるような教育
5 食材を育て、食べ、片付けるまでの一連の流れを食育として学ばせる教育

問九 傍線部**7**「知は紙上を滑るだけのものから、実地に根を張ったものになりうるだろう」とあるが、筆者は「知」がどのようなものになると考えているのか。最も適当なものを、次の**1**～**5**のうちから一つ選べ。解答番号は 33 。

1 授業を受けて知るのではなく、自分で調べることによって知ることができるもの
2 試験で評価されるのではなく、実生活の場面で活用できるかが問われるもの
3 教師から教えられるのではなく、地域の農業・漁業に携わる人々から学ぶもの
4 教科書などを通して得るのではなく、実際の体験に基づいて身につけられるもの
5 学校の教科として学ぶのではなく、日常生活において食事を通して学ぶもの

問十 本文の特徴として最も適当なものを、次の**1**～**5**のうちから一つ選べ。解答番号は 34 。

1 給食の歴史をたどることによって、現状の問題点を分析し鋭く批判している。
2 給食をめぐる運動について詳細に解説し、今後の運動の方向性を提案している。
3 複数の事例を紹介しつつ、給食と教育のあり方について意見を述べている。
4 身近な例を用いて、給食と子どもに関する持論を軽妙な語り口で展開している。
5 問いかけを多用し、給食について読者に考えさせることに主眼を置いている。

問十一　本文の内容と**合致するもの**はどれか。最も適当なものを、次の**1**～**5**のうちから一つ選べ。解答番号は 35 。

1　給食をめぐる抗議運動において、給食という不可侵のシステムに立ち向かうことは難しかったが、食のプロセスを通じた具体性のある知識を身につけさせる教育の確立の一助となったと言える。

2　給食による長期的な影響として、栄養の偏りによる子どもたちの発育不全の可能性が考えられるため、地方の保護者が都市部と連帯を強め、国民全体の課題として注目されるようになった。

3　すずらん給食や占領下の沖縄で行われたような非都市型の運動は、欠食児童のために給食を求めることだけを重視した運動であったため、教師の雑務を増やすことにつながった。

4　給食は〝教育の一環〟にすり替えられ、昼食との境界があいまいになってしまったが、食はあらゆる学びの基本であり、学校教育にも反映させることができる。

5　水銀汚染や放射能汚染のような公害と給食がおよぼす悪影響は共通しており、人間が生きものの連鎖のうえにしかその生を維持できない以上、別の制度を考えるべきである。

【選択問題】古文

※国文学科に出願している場合（国文学科を併願している場合も含む）は、(二)ではなく、必ずこの問題を解答すること

※この問題を解答する受験生は、マークシートの「(三)古文」にマークの上、解答すること

(三) 次の文章は『源氏物語』の一節である。光源氏は、病気療養のため、京都の北山に行き、そこで病気をなおす。以下の本文は、病気をなおした光源氏が、帝を訪れる場面から始まる。これを読んで、後の問い（問一～十三）に答えよ。

君は、まづ内（注2）にまゐり給ひて、日ごろの御もの語りなど、聞こえ給ふ（帝に）。いといたう衰へにけりとて、ゆゆしとおぼしめしたり（帝は）。聖（注4）のたふとかりける事など、問はせ給ふ（i）。くはしく奏し給へば（光源氏が）、

とらうたがりのたまはせけり。

大殿（注6）まゐりあひ給ひて、

「阿闍梨（注5）などにもなるべきものにこそあなれ。おこなひの労は積りて、おほやけにしろしめされざりける事。」

（帝）

とて、

「御迎へにもと思ひ給へつれど（ii）、忍びたる御ありきに、いかがと思ひはばかりてなむ。のどやかに一二日うちやすみ給へ。」

（左大臣）

イ「やがて御おくり仕うまつらむ。」

と申し給へば、さしもおぼさねど（光源氏は）、引かされてまかで給ふ。わが御車に乗せたてまつり給うて、みづからは引き入りてたてまつれり。もてかしづききこえ給へる御心ばへのあはれなるをぞ、ウさすがに心ぐるしくおぼしける。

殿（注8）にも、おはしますらむと心づかひし給ひて、久しく見給はぬほど、いとど玉の台（左大臣邸内は）に磨きしつらひ、よろづをととのへ給へり。女君（注9）例のはひ隠れてとみにも出で給はぬを、おとどせち（注10）に聞こえ給ひて、からうして渡り給へり。ただ絵にかきたるものの姫君のやうにし据ゑられて、うちみじろき給ふ事もかたく、うるはしうてものし給へば、思ふこともうちかすめ、山道のもの語りをも聞こえむ、言ふかひありてをかしういらへ給はばこそあはれならめ、世には心もとけず、疎くはづかしきものにおぼして、年の重なるに添へて御心の隔てもまさるを、いと苦しく、思はずに、

（光源氏）

A「ときどきは世の常なる御けしきを見ばや。耐へがたうわづらひ侍りしをも、いかがとだに問ひ給はぬこそ、めづらしからぬ事なれど猶うらめしう。」

と聞こえ給ふ。からうして、

（葵上）
「問はぬはつらきものにやあらん。」

（Ⅱ）としり目に見おこせ給へる、まみいとはづかしげに、け高ううつくしげなる御かたちなり。

（光源氏）
「まれまれは、あさましの御事や。『問はぬ』など言ふ際はことにこそ侍るなれ。心うくものたまひなすかな。世とともにはしたなき御もてなしを、もしおぼしなほるをりもやと、とさまかうざまに心みきこゆるほど、いとど思ほし疎むなめりかし。よしや命だに。」

とて、夜の御座に入り給ひぬ。

女君ふとも入り給はず。聞こえわづらひ給ひてうち嘆きて臥し給へるも、なま心づきなきにやあらむ、ねぶたげにもてなして、とかう世をおぼし乱るること多かり。

この若草の生ひ出でむほどのなほゆかしきを、似げないほどと思へりしもことわりぞかし、言ひ寄りがたき事にもあるかな、いかにかまへて、ただ心やすく迎へとりて明け暮れの慰めに見ん、兵部卿の宮はいとあてになまめい給へれど、にほひやかになどもあらぬを、いかでかの一族におぼえ給ふらむ、ひとつ后腹なればにや、などおぼす。ゆかりいとむつましきに、いかでか、と深うおぼゆ。

又の日、御文たてまつれ給へり。僧都にもほのめかし給ふべし。尼上には、

もて離れたりし御けしきのつつましさに、思ひ給ふるさまをもえあらはし果て侍らずなりにしをなむ。かばかり聞こゆるにても、おしなべたらぬ心ざしのほどを御覧じ知らば、いかにうれしう。

などあり。中に小さく引き結びて、

面影は身をも離れず山桜心の限りとめて来しかど
夜の間の風もうしろめたくなむ。

とあり。御手などはさるものにて、ただはかなうおしつつみ給へるさまも、さだ過ぎたる御目どもには目もあやにこのましう見ゆ。あなかたはらいたや、いかが聞こえん、とおぼしわづらふ。

注1　君――光源氏のこと。
注2　内――内裏のこと。光源氏の父である帝と、内裏で会話している。
注3　日ごろ――ここでは、光源氏の病気療養中の日々のこと。
注4　聖――光源氏が病気の療養でお世話になった僧のこと。
注5　阿闍梨――僧の職の一つ。
注6　大殿――左大臣のこと。光源氏の妻である葵上の父。
注7　わが御車――左大臣の牛車のこと。
注8　殿――左大臣邸のこと。光源氏の妻である葵上もここにいる。

注9　女君――葵上のこと。
注10　おとど――左大臣のこと。
注11　夜の御座――寝室のこと。
注12　若草――紫上のこと。病気の療養中に、光源氏は、紫上のことを見て、それ以来、気にかけている。
注13　兵部卿の宮――紫上の父のこと。
注14　ひとつ后腹なればにや、などおぼす――光源氏が思いを寄せる藤壺と、紫上は似ている。藤壺の兄は、兵部卿の宮であり、藤壺は紫上の叔母にあたる。このあたりの血縁関係に光源氏が思いをめぐらせているのである。
注15　僧都――この僧都は、先の聖とは別の僧である。紫上の生活や環境に対して、影響力のある人物。
注16　尼上――紫上の面倒をみている人物のこと。
注17　夜の間の風もうしろめたくなむ――和歌に添えられた言葉である。紫上のことを心配していると解釈できる。

問一 傍線部a～eの解釈や説明として、最も適当なものを、次の1～5のうちから、それぞれ一つずつ選べ。解答番号は 20 ～ 24 。

a ゆゆし 20

1 かなり奇妙だ
2 非常に嬉しい
3 極めて珍しい
4 とても心配だ
5 全く理解できない

b せちに 21

1 弱く
2 強く
3 そっと
4 それとなく
5 意外と

c いとはづかしげに 22

1 帝がいつ見ても気が引けるほど
2 葵上が非常に気まずくなるほど
3 光源氏がとても恥ずかしくなるほど
4 服の糸がほつれて気がとがめるほど
5 左大臣が常にきまりが悪いと感じるほど

d 入り給ひぬ 23

1 帝がお入りになった
2 葵上がお入りになった
3 光源氏がお入りになった
4 葵上がお入りにならない
5 光源氏がお入りにならない

e にほひやかになどもあらぬを 24

1 はなやかな美しさなどもないのに
2 香りなどもよいわけではないのに
3 鼻などもきくわけではないのに
4 気だてがすぐれているわけでもないのに
5 子供の匂いがするわけではないのに

問二　波線部(ⅰ)と(ⅱ)の文法的説明として、最も適当なものを、次の**1**～**5**のうちから、それぞれ一つずつ選べ。解答番号は（ⅰ）＝ 25 、（ⅱ）＝ 26 。

（ⅰ）　せ給ふ 25

1　サ行変格活用動詞「す」の連用形に、「食べる」の謙譲語である「給ふ」が接続し、飲食をともなったやりとりであることが示されている。

2　尊敬を表す助動詞「す」の未然形に、尊敬を表す補助動詞「給ふ」が接続し、敬語としては過剰な表現になっている。規範的な文法から考えると、例外的である。

3　使役を表す助動詞「す」の未然形に、謙譲を表す補助動詞「給ふ」が接続し、第三者への指示を示している。その場に、身分の低い第三者がいると思われる。

4　尊敬を表す助動詞「す」の連用形に、尊敬を表す補助動詞「給ふ」が接続し、最高敬語となっている。主語は、帝や皇后等である可能性が高い。

5　使役を表す助動詞「す」の連体形に、謙譲を表す補助動詞「給ふ」が接続し、かなり強引な形で質問をしていることが表現されている。

（ⅱ）　思ひ給へつれど 26

1　ハ行四段活用動詞「思ふ」の連用形＋謙譲を表す補助動詞「給ふ」の連用形＋完了の助動詞「つ」の已然形＋接続助詞「ど」である。逆接確定条件を表している。

2　ハ行上二段活用動詞「思ふ」の連用形＋尊敬を表す補助動詞「給ふ」の連用形＋完了の助動詞「つ」の未然形＋接続助詞「ど」である。逆接仮定条件を表している。

3　ハ行下二段活用動詞「思ふ」の已然形＋丁寧を表す補助動詞「給ふ」の連用形＋完了の助動詞「つ」の未然形＋接続助詞「ど」である。順接仮定条件を表している。

4　ハ行上二段活用動詞「思ふ」の未然形＋尊敬を表す補助動詞「給ふ」の連用形＋完了の助動詞「つ」の連用形＋接続助詞「ど」である。二方面敬語を表している。

5　ハ行下二段活用動詞「思ふ」の連体形＋尊敬を表す補助動詞「給ふ」の連用形＋完了の助動詞「つ」の已然形＋接続助詞「ど」である。順接確定条件を表している。

問三 傍線部**ア**「なるべきものにこそあなれ」の解釈として、最も適当なものを、次の**1**～**5**のうちから、一つ選べ。解答番号は 27 。

1 「(阿闍梨に) なられたら困る」という解釈で、帝がその聖を恐れていることが分かる。
2 「(阿闍梨に) してあげたのだ」という解釈で、帝がその聖と知り合いであることが分かる。
3 「(阿闍梨に) なるにふさわしいものなのに」という解釈で、帝がその聖を認めていることが分かる。
4 「(阿闍梨に) 知られたら大変だ」という解釈で、帝がその聖を心配していることが分かる。
5 「(阿闍梨に) なるはずのものは他にいる」という解釈で、帝がその聖を好きではないことが分かる。

問四 傍線部**イ**「やがて御おくり仕うまつらむ」の解釈として、最も適当なものを、次の**1**～**5**のうちから、一つ選べ。解答番号は 28 。

1 すぐにお送り致します
2 時期が来たら送って差し上げます
3 しかるべき時には、迎えに参ります
4 収穫したら、贈り物としてお届け致します
5 送り迎えが必要な時は、ご連絡ください

問五 傍線部**ウ**「さすがに心ぐるしくおぼしける」とあるが、この時の光源氏の心情として、最も適当なものを、次の**1**～**5**のうちから、一つ選べ。解答番号は 29 。

1 左大臣は、非常に強引に光源氏を自宅に呼んでいる。このため、光源氏はさすがに苦々しく感じている。
2 左大臣は、かなりつめて牛車に乗ってくる。このため、光源氏は、せま苦しく感じている。
3 左大臣は、自分の牛車なのに、奥に下がって乗っている。このような左大臣の一連の配慮に、光源氏は恐縮している。
4 左大臣の牛車は、とても高級なものである。このため、光源氏は、乗せてもらうことを申し訳なく思っている。
5 左大臣の牛車は、一人乗りである。このため、光源氏は、さすがに無理があるだろうと思っている。

問六 傍線部エ「面影は身をも離れず山桜」とあるが、この部分の説明として、最も適当なものを、次の**1**～**5**のうちから、一つ選べ。解答番号は 30 。

1 山桜は、病気療養中に見た美しい景色の代表である。もう一度、そちらに行きたいと和歌に詠んでいる。
2 山桜は、紫上のことである。紫上の姿が意識から離れないことを和歌に詠んでいる。
3 山桜は、理不尽な世の中の象徴である。全てを忘れて出家したいと和歌に詠んでいる。
4 山桜は、光源氏の健康が回復したことを意味している。病気療養のお礼を和歌に詠んでいる。
5 山桜は、尼上のことである。尼上への秘めた恋を、和歌でそれとなく伝えている。

問七 二重傍線部（Ⅰ）「よろづをととのへ給へり」とあるが、この表現から読み取れることとして、最も適当なものを、次の**1**～**5**のうちから、一つ選べ。解答番号は 31 。

1 左大臣邸は、とても粗末なところであり、左大臣が倹約家であることが分かる。
2 光源氏は、左大臣邸に宿泊する用意を予めしていたと思われる。
3 葵上は、服装がきちんとしており、教養の高さがうかがえる。
4 左大臣は、光源氏を自分の屋敷に連れてくるつもりであったと考えられる。
5 光源氏はとても疲れており、うんざりしていることが示されている。

問八 二重傍線部（Ⅱ）「しり目に見おこせ給へる」とあるが、この表現から読み取れることとして、最も適当なものを、次の**1**～**5**のうちから、一つ選べ。解答番号は 32 。

1 葵上は、周囲にさとられないよう、光源氏に目くばせをしている。思慮深い性格であるといえる。
2 葵上は、目をつりあげるほど光源氏に激怒している。怒りっぽい性格であることが分かる。
3 葵上は、光源氏のことを全く見ていない。顔も見たくないという気持ちが伝わってくる。
4 葵上は、正面からは光源氏を見ていない。少し冷たい印象である。
5 葵上は、茶目っ気たっぷりの視線で、光源氏に好意を示している。幼さがうかがえる。

問九 会話文Aにおける光源氏の気持ちを示したものとして、最も適当なものを、次の**1**～**5**のうちから、一つ選べ。解答番号は 33 。

1 北山の美しい景色もよいが、京の日常の景色も見てみたい。
2 普段はもっとこちらのことを心配してくれるのに、今日はおかしい。
3 珍しくはない通常通りの会話だと、悪い気はしないものの、あまり面白くはない。
4 せっかく左大臣邸に来たのだから、普段は食べられない珍しいものを食べて語り合いたい。
5 病気だったのだから、世間一般の男女のように、お見舞いの言葉くらいはかけてほしかった。

問十　本文の内容と**合致しないもの**はどれか。次の**1**～**5**のうちから一つ選べ。解答番号は 34 。

1　光源氏は、紫上を引き取りたいと思っている。
2　尼上は、光源氏の字が美しいと思っている。
3　葵上との心のへだたりに悩んでいた光源氏は、紫上のことを思い出している。
4　葵上は、普段は、光源氏にとても優しい。
5　尼上は、光源氏からの手紙の返事をどう書こうか迷っている様子である。

問十一　本文の内容と**合致するもの**はどれか。次の**1**～**5**のうちから一つ選べ。解答番号は 35 。

1　光源氏と葵上は、厳しい口調で会話をしていたものの、すぐに仲直りをしている。
2　左大臣は、光源氏のことをあまり大切には思っていない様子である。
3　光源氏は葵上の態度を冷たいと感じているものの、葵上の美しさを認めてもいる。
4　光源氏は、人間関係に疲れており、積極的に人にアプローチすることはない。
5　尼上と光源氏の関係を、僧都は怪しんでいるふしがある。

問十二　『源氏物語』の作者と生きている時代が異なる人物は誰か。最も適当なものを、次の**1**～**5**のうちから、一つ選べ。解答番号は 36 。

1　藤原彰子
2　藤原公任
3　源頼朝
4　清少納言
5　藤原道長

問十三　『源氏物語』より前に成立した文学作品は何か。最も適当なものを、次の**1**～**5**のうちから、一つ選べ。解答番号は 37 。

1　『伊勢物語』
2　『平家物語』
3　『太平記』
4　『更級日記』
5　『宇治拾遺物語』